（２）集出荷販売の現状及び改善目標

米麦：4 箇所のライスセンターと、2 箇所のカントリーエレベーターが設置されており、乾燥調整作業の省力化と品質の均一化を図っている。今後は、農機具の効率的利用と物流の合理化を図るため、計画的な営農集団の育成を図る必要がある。

野菜：農協には作物ごとに生産出荷組織があるため、組織を通じほとんど共同出荷体制が確立されており、いちご、メロン、なす、トマト、ニラ等が首都圏を中心に出荷されている。今後は、現在の産地銘柄の維持を図りながら、地元市場対応の地場野菜産地の集出荷体制を整備するとともに、地産地消を推進する。

果樹：なし・ぶどうの栽培農家は 5 戸であり、高齢化に伴う減少傾向にある中、個人選果・個人販売が中心となっている。今後は共販体制を目標としながら、後継者・新規就農者の確保に努め、産地の活性化を図る。

花卉：菊を中心とした切花については、現在組織されている広域の出荷組織を拡充し、情報販売による市場動向と連動した販売戦略を行い、有利販売を実践する。
また、シクラメンを中心とした鉢物については、大半が個人出荷であるので、出荷規格及び出荷容器を整備し、出荷の一元化による有利販売を推進する。

乳牛：乳牛生産農家は 37 戸で平均飼養頭数は 48 頭であり、専門農協で全量集出荷している。今後は、需要に見合った計画的な生産を基本とし、牛群検定事業による牛群の資質向上を推進する。

豚：生産農家は 14 戸で系統販売も進んでいるが、なお個人取引もある。今後は販売体制等の整備を図る。

４　農業生産技術の改善目標

米：米は本市の基幹作物となっているが兼業化が進み、生産意欲の減退等による栽培技術の粗放化が目立っている。また、農機具等の過剰投資が顕著であり、自己完結型の経営が主流となっている。今後は収量の高位平準化と良質米の拡大を図るため、品種の選定をはじめ栽培管理技術の励行、地力の維持増進などを積極的に推進する。さらに農業機械の適正な整備と効率的な利用により生産コストの低減を図る。

麦：麦は生産調整推進対策の実施に伴い転作作物として最も重要な位置を占めており、作付率は増加傾向にある。しかし、湿害や病害虫、連作障害等により収量の年較差も激しく品質にも問題がある。今後は実需者の求める品種の作付けを推進し、排水対策の徹底と団地化の推進、収穫・乾燥・調整の適正化による品質の向上、圃場の条件に適合した栽培法の推進、病害虫対策の徹底等を図る。

豆類：大豆は重要な転作作物としてその位置を占めており、今後は「麦＋大豆」のブロックローテーションの普及と生産の組織化、機械化を促進し、労働生産性の向上を図り、土壌改良資材や良質堆きゅう肥の適正な施用及び輪作体系により連作障害や連作に伴って増加する病害虫を回避し、単収及び品質の向上を図る。

野菜：都市近郊という有利な立地条件を活かし園芸作物を中心に各種の野菜が栽培されている。今後は多様化、高品質化を望む需要動向に対して、指定野菜を中心に自主検査規格を遵守し、品質及び商品価値の向上に努め、長期的に安定した産地の育成を図る。また、農業生産工程管理（ＧＡＰ）の導入を推進し、安全安心な農業経営を確立する。

果樹：なし、ぶどうについて栽培管理の省力化に努め、施肥・薬剤散布・草刈・剪定枝の処理等の機械化を進め、摘果、管理等生産技術の高位平準化を図り、風害、降ひょう対策を実施し、生産の安定を図る。

花卉：出荷調整用機械等の整備、稲作等複合部門の合理化、共同育苗等による労働力の軽減と規模拡大を図り、消費者ニーズにあった品種の導入、栽培技術の平準化、周年出荷体制を充実を図る。

飼料作物：酪農経営における飼料自給率は年々向上し、近年は転作水田や水田裏の有効利用が促進され、飼料稲や飼料米の生産拡大が図られている。また、ホールクロップサイレージ等の粗飼料体系の確立により、良質な飼料作物の生産が行われており、引き続き、生産基盤の確保に努め、新たな飼料稲導入を進めながら、生産の拡大を図る。

乳用牛：牛乳については、飼料価格高騰に対応した飼養・繁殖管理をするため、優良雌牛の導入、牛群検定事業の活用による資質の向上や徹底した個体管理による産乳能力の向上などに努め、転作水田・転作裏等の一層の有効利用を進め、良質な粗飼料（飼料稲等を含む）の生産拡大を図り、飼料自給率の向上に努めるとともに、安全・安心な生乳生産に努める。

肉牛：肉牛については購入飼料依存度の高い経営からホールクロップサイレージ等の粗飼料体系を確立し、繁殖・肥育の一貫経営の定着化と経営規模の拡大を推進し、土づくりと併せた合理的なふん尿処理や粗飼料の自給率を高める。また、遊休農地を利用した放牧の推進を図る。

豚：豚については優良素豚の導入など、改良増殖技術を推進しており、今後はより一層の個体管理・衛生管理の強化に努めながら、経営の省力化を図るとともに、価格変動等に対処出来る安定した経営技術の確立に努める。

鶏卵：鶏卵については計画生産が継続しているため、生産量の増大が見込めない現状にある。今後は作業の省力化、合理化の促進等をすすめ、低コストによる収益性の高い経営技術を確立するとともに、防疫体制を一層強化し、疾病の発生の徹底防止を図る。